

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572610129
法人名	有限会社水谷
事業所名	グループホームおおた
所在地	大仙市太田町齊内字中田201 (電話) 0187-89-1066
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年8月10日

【情報提供票より】 (7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年8月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤9人, 非常勤1人, 常勤換算9.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造軸組 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	129 円
	または1日当たり		829 円	

(4) 利用者の概要 (7月24日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低	60歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北組合総合病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大仙市の郊外の静かな田園地帯に位置しており、周囲の環境は大変落ち着いている。管理者である法人代表者が、介護保険の理念である自立支援を、地域の中で活かしていくことを目指して建てられたホームであり、「継続性」、「自己決定」、「自己資源の開発」の三つを基本方針とした、具体的でわかりやすい運営理念が掲げられている。利用者の支援は、個々のペースを大切にして行われており、一人ひとりが各自の状況や力に応じた役割を持ち、それぞれ生き生きとした表情で取り組まれ、生きがいや張りのある日々を過ごせるように配慮されている。また、利用者が近隣の児童館を訪問したり、地域の行事に参加するなど、積極的な地域交流に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の権利義務の説明及びプライバシーの配慮等が前回評価の改善課題であったが、権利義務を明記した用紙の活用などの様々な工夫により、改善への取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員で分担して記入した評価票をもとに、管理者と各職員の共通理解の上で評価結果をまとめ、利用者支援に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が2ヶ月に1回定期的に開催され、ホームの現況の報告や運営課題等に対して積極的に意見が述べられるとともに、必要な討議がなされており、ホームの運営やサービスの向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付窓口を開設し周知が図られている他、玄関には苦情受付箱が設置されている。利用者それぞれの家族が頻りにホームを訪れており、気軽に要望等を話せるように配慮されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の子ども会との共催による花火大会の実施など、地域行事等への利用者の参加が進められている他、踊りのボランティア等が来訪する機会もあり、近隣の方がホームを訪れ一緒に鑑賞している。さらに、避難訓練への地域住民の参加もみられ、積極的な地域交流及び連携が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	三つの柱からなるわかりやすい運営理念が掲げられており、利用者支援の基本となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で勉強会を行い相互理解を深め、それぞれが理念に添った支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の近隣の児童館への訪問や、子ども会との共催による花火大会の実施、地域の行事への参加などを通して、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	それぞれの職員が評価の意義を十分に理解し、分担して記入した評価票をもとに、共通理解の上で自己評価結果をまとめており、また、外部評価結果を、運営推進会議の委員や各家族に対して周知を図るなど、共通理解の上で、評価結果を活かしたサービスの改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が2ヶ月に1回定期的に開催され、ホームの現況の報告や運営課題等に対して積極的に意見が述べられるとともに、必要な討議がなされており、ホームの運営やサービスの向上に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者への働きかけに努めており、サービスの向上に活かしていけるように、十分な連携を目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、便りの発送を行なっている。また、家族が病院に付き添った時等、家族が頻繁にホームを訪れているため、密な報告ができる関係にある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を開設し周知を図るとともに、玄関に苦情受付箱を配置し、家族の来訪の都度にきちんと要望等を伺うように努めており、ホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等に際しては、利用者へ影響を最小限の抑えるように努めており、不安を感じさせないように、異動後もホームを訪れるなどの配慮がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の希望等に応じて様々な外部の研修等に参加できるように配慮されている。さらに、ホーム内においても、それぞれの経験等に応じたレポート課題への取り組みなど、段階に応じて職員を育てる取り組みが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北グループホーム協議会等を通じた会合などへ積極的に参加している。さらに、わからないこと等があれば他のホームへ聞きに伺うなど、相互の交流によりサービスの質を高めていく取り組みが行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学や行事へ参加することなどが可能である。入居後、しばらくの間、日中は自宅へ帰宅し、夜間をホームで過ごしていただくなど、馴染みながらサービスを利用していくことができるように配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	広く落ち着いたスペースとなっている食堂兼居間は、事務室を解放してつくられており、職員が常に利用者の近くにおいて、喜怒哀楽を共にしながら過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活への思いや意向の把握に努めており、それぞれの意向に沿った外出や活動等への参加など、利用者本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族のホーム来訪時に十分な話し合いを行い、本人や家族の意見・思いをきちんと反映した介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月詳細なチェック表を用いてアセスメントを行い、利用者の変化に応じた適切なケアに努めている。必要時は、介護計画の見直しが行われている。介護計画の期間は12ヶ月が基本となっているが、期間によらない随時の見直しを中心となっている。	○	利用者の状態等の変化に応じた支援を行うためには、介護計画の適切な見直しが必要である。そのために、長期目標及び短期目標の期間をきちんと設定し、期間に応じた見直しを行っていくことが求められる。毎月行われている詳細なモニタリングを活かしていくためにも、取り組みが期待される。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居間もない利用者が、馴染みやすいように、しばらくの間、日中は自宅へ帰宅し、夜間をホームで過ごす機会を持てるよう配慮するなど、状況や要望に応じた柔軟な対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりが、それぞれの希望に添ったかかりつけ医やかかりつけ歯科医を受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々の利用者の心身の機能等をきちんと把握し、食事ケアや医療面等、それぞれが必要な支援の状況に応じて、他の適切な環境での確かな援助を受けられるように、本人・家族やかかりつけ医と話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員それぞれが、誇りやプライバシーを十分に尊重し、利用者一人ひとりの思いを受けとめた対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望やペースに応じた外出や入浴、余暇活動への参加など、一人ひとりがその人らしいよりよい生活を送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が、職員とともに、食材の皮むきや盛り付け、配膳など、それぞれの経験や力を活かして役割を分担し、準備や後片付け等にあたり、皆で食事を楽しむことができるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	利用者一人ひとりが、それぞれの生活のペースに合わせて入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の皮むき、盛り付け、配膳、テーブル拭き、後片付けや、洗濯たたみ、新聞たたみ、花のお世話など、利用者それぞれが、生活歴や力を活かした役割等を持つことにより、張り合いや喜びのある毎日を送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	大型スーパー等での買い物やお花見など、ホーム全体での外出行事を積極的に行なうとともに、「ちょっと家を見に行きたい。」というような、利用者のその日の思いや気分に応じた個別の希望へも柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	運営者及び全ての職員が、鍵をかけることの弊害を十分に理解したケアに努めており、日中は玄関に鍵をかけていない。また、利用者が外へ出た場合に鈴が鳴るなど、安全確保のための工夫もみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員の指導のもとで、年2回、定期的に避難訓練を実施している。自治会の会長や近隣住民の参加もみられ、災害発生時の地域の協力支援体制を確保している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量を詳細に記録しており、少ない場合、適切な言葉かけに努めるとともに、果物等、本人が好みの物で摂取できるような工夫も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務室を開放してつくられた食堂兼居間は、広くゆったりとした構造になっており、一人ひとりの利用者が、居心地よく落ち着いて過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが、思いに添った使い慣れた家具等を持ち込んでおり、居心地よく落ち着いて過ごせるように配慮されている。		

※ は、重点項目。